

# Teen for 3.11 通期活動報告書

---

# 0.目次

---

1.本報告書について

2.団体設立目的

3.活動経緯

4.実施内容

5.参加者の声・現在の行方

6.効果

7.今後の活動

8.メディア掲載歴

9.イベント登壇歴

10.御礼

11.会計報告書について

12.その他特記事項

## 1.本報告書について

---

『Teen for 3.11』とは2012年4月より活動を開始した「10代の10代による10代のための復興支援団体」である。

主に高校生を対象としたバスツアーの実施やフリーペーパーの発行、復興支援イベントを開催した。

本書は弊団体が2018年3月24日をもって活動を終了するにあたり、過去6年間の活動実績をまとめ、関係者の方々への報告とするものである。

## 2. 団体設立目的

---

1.

10代による復興支援のしやすい環境を整えること

2.

次の災害に向け、素早く行動を起こせる体制を整えること

### 3.活動経緯

---

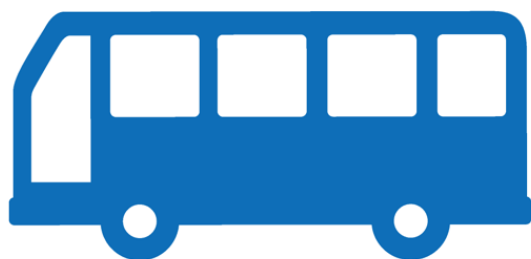
2011年12月、当時高校二年生であった弊団体創設者の塚田は、東日本大震災に関連する写真展を開催していた大学生の学生団体に所属しながら、被災地に対して関心のある高校生がいるにも関わらず、彼ら/彼女らが主体的に携わることのできる場がないことに疑問を抱き、計画を開始。

2012年4月2日、団体設立。同年5月に関西支部、同年9月に東海支部設立。以後3拠点にてバスツアーの実施、フリーペーパーの発行、イベントの開催といった復興支援活動を行う。

## 4.実施内容

バスツアー

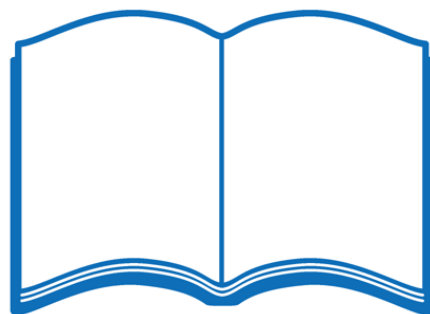
13回



423 (人)

フリーペーパー

5回



7,100 (部)

イベント

12回



400 (人)

Teen for 3.11 を通して、復興支援に関わった人数

**\*11,961 (人)**

\*メルマガ、SNS 等含む

## 4.実施内容

### ■活動実績 - バスツアー

#### ・特徴

多くの“Teen”に是非東北へ行ってほしい、そして多くのことを感じ、震災や東北について考えてほしい。そんな願いを持って活動。バスや宿の手配から説明会の実施、さらには旅行後のリフレクションまでを高校生だけで実行。

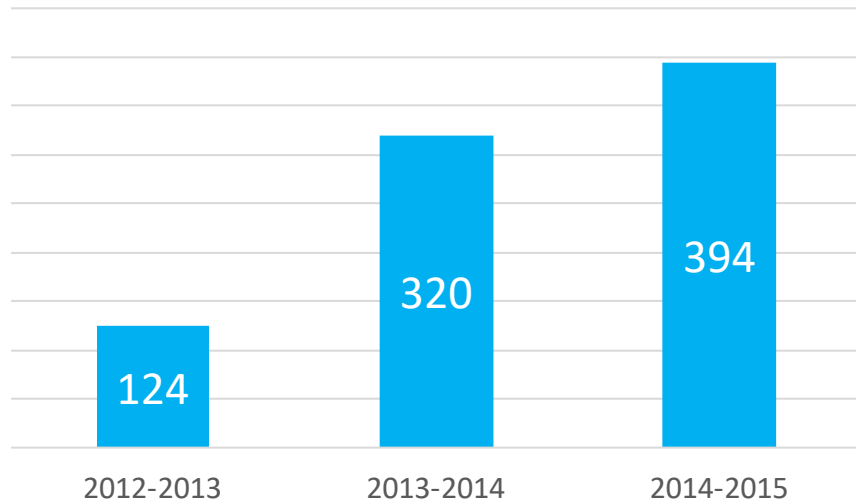


図1:参加者推移（関東のみ）



図2:第一回東北ツアー

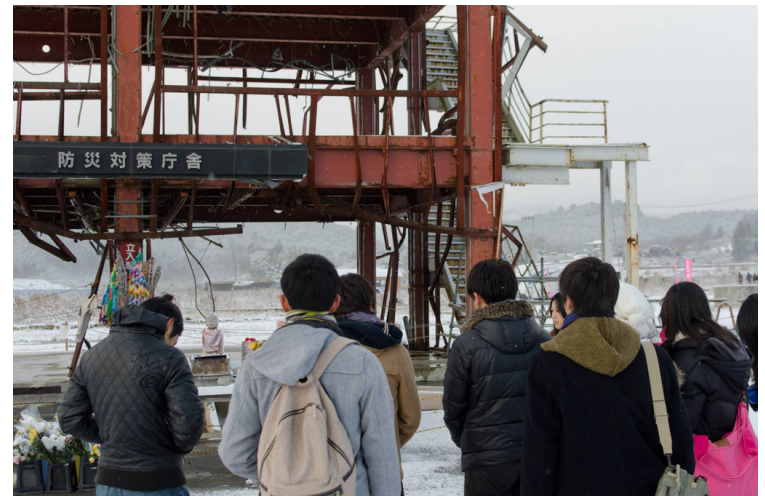


図3:第五回東北ツアー

## 4.実施内容

### ■活動実績 - フリーペーパー発行

#### ・特徴

できるだけ多くの“Teen”に、まだ復興は終わっていないということと“Teen”のチカラが必要であることを伝えるべく、紙媒体を用いた活動を実施。イベント出展の他、一部の高校ではクラスへ配布。

# 東北かいり!



Teen for 3.11 Edition **1**

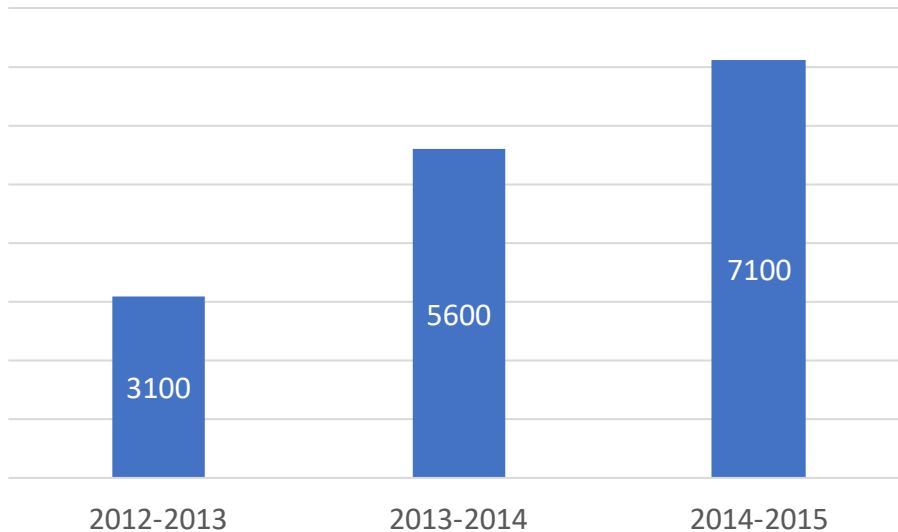


図1:発行部数推移





## 4.実施内容

### ■活動実績 - イベント実施

#### ・特徴

「関東でできる復興支援」のカタチの提供を目指して、主に東北の食材を使った料理教室を企画・実施。復興支援のファーストステップとなるよう、1,000円以内の参加費に抑え開催。

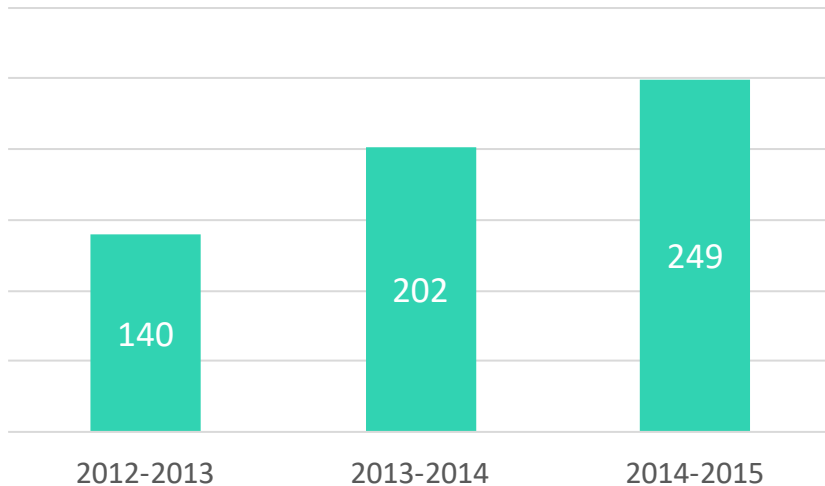


図1:参加者推移（関東のみ）



図2:第二回料理教室



図3:調理したメニュー

## 4.実施内容

---

### ■活動実績 – 東海支部

料理教室 2回 : 48人

ESD YOUTH INITIATIVE 防災ブース : 約80人

### ■活動実績 – 関西支部

東北バスツアー 3回 : 45名

イベント実施 3回 : 23名

## 4.実施内容

---

### ■活動実績 – その他実績

メールマガジン登録者数 約400人 (2014/03時点)

Facebookページ 2,586いいね！(2018/02時点)

Twitterフォロワー 1,052人(2014/03時点)

## 5.参加者の声・現在の行方

### ■参加者の声

#### 1.河西雪菜 (第一回旅行参加者)

私がTeen for 3.11に出会ったのは、高校3年生の夏でした。その時の私にとって、1人で参加することは勇気がいることでしたが、自分の目と耳で状況を知ることの大切さと、ボランティアの難しさ、一緒に真剣に考えられる仲間の存在に気づくことができた旅行でした。この旅行がきっかけで、大学進学後、海外ボランティアに参加しました。その後、今後も海外ボランティアをしていきたい、日本にいる外国人の子どもたちを支援したいという思いから留学をしました。

きっと、あのとき勇気をだして旅行に参加していなければ、海外ボランティアに行くことも、留学することもなかったと思います。今思い返すと、運命なんかじゃなくて、自分で選んできたんだなあと思います。その選んできた道の中に、Teen for 3.11の旅行があって、もっと自分の選択の幅、見てみたい景色を広げることができたことに本当に感謝しています。

Teen for 3.11のみんなに出会えて幸せです。またどこかでみんなに会えたら嬉しいです！

## 5.参加者の声・現在の行方

### ■参加者の声

#### 2.大浦律子(第三回旅行参加者)

旅行の最後に耀太さんが言っていた「微力だけど無力じゃない。」という言葉がきっかけでまずは募金からやってみようと思い、高校では福祉委員となりました。委員会では沢山の募金や障がい者支援など様々な活動をし、気づいたら高校3年間続けていました。

小児がん患者へ売り上げを寄付するアレックスレモネードスタンドという活動を学校行事に取り入れ、責任者として企画、実行も行いました。

Teenでの企画に比べたら本当に小さいことだったのですが、1から作り上げる事の大変さが初めて分かりました。今、私は医学部を目指して2浪していましたが、4月からは他学部に進学する予定です。なので今後はどの道に進むのか全く決めてませんが、TeenのOB,OGや活動を通して出会った方々のように、興味のあることに沢山挑戦していきたいと思っています。Teenでの活動期間は短かったですが、高校生活で1番刺激を受け、視野が大きく広がった時間でした！

## 5.参加者の声・現在の行方

### ■運営メンバーの声

#### 1.大澤咲希（3代目冊子班長）

Teen for 3.11は、私が学生団体というものに出会うきっかけとなりました。ずっと東洋英和でミュージカルしかしてなくて井の中の蛙だった私の人生が変わったといっても過言ではありません。

私は三代目冊子班長として「東北さいこう！」3号を発行しました。フリーペーパーを作ることの難しさと面白さを知って、TF3を卒業したあと自分の学生団体を立ち上げ、フリーペーパー「Sakiiro」を創るきっかけになりました。TF3に入ってみて賢者屋などに出入りして、私の知らない学外で自ら世の中に価値を見出す人たちと出会ったのもフリーペーパー立ち上げの一因になりました。今ではビジネスモデルは変わっていますが、今でも学生団体Sakiiroが私の大学生活の軸になっています。こんな素敵な出会いを与えてくれたTF3に感謝しています。

これからも、3.11の記憶とともに、私たちのTeen for 3.11が記憶の中で生き続けますように。

## 5.参加者の声・現在の行方

### ■運営メンバーの声

#### 2.古川拓（初代広報班長・元副代表）

私は創設当初には広報班長として、その後は副代表として、Teen for 3.11に1年半ほど携わってきました。活動を通して多くの方々に出会い、活動のみならず生きるうえでの糧となるようなことをたくさん経験させてもらったことに心から感謝しています。

私はこの活動を通して、これまでほとんど縁のなかった東北という地域に足を運び、親戚であるかのように温かく接してもらえる漁師さんとの繋がりができました。私が普段生活している関東とは離れた場所に繋がりができるということの価値を実感しました。

現在もなお度々東北に足を運んでいます。私はこの経験をきっかけに高齢化率日本一の自治体である群馬県南牧村での活動をしています。南牧村と外部との繋がりを、歴史や文化、資源などを用いて作る方法を模索しています。

この団体でお世話になった皆さんのおかげさまで今の私があると言っても過言ではありません。運営メンバーの仲間も含め、本当にお世話になりました。短い間ではありましたが、ありがとうございました。

## 6.効果

---

### ■ 1.10代による復興支援のしやすい環境を整えること

10代の関わることのできる場が少なかった東日本大震災後の復興支援において、

弊団体の活動により、11,961人の10代が復興支援に携わることが出来た。

これは、当時存在した他の復興支援組織と比較しても、復興支援に携わる  
ことにおいて影響力をもたらしたと言えるだろう。

以上より、一定の環境を整えるという役割を果たすことができた。



## 6.効果

### ■ 2. 次の災害に向け素早く行動を起こせる体制を整えること

2016年に発生した熊本地震において、Teen for 3.11のOB・OGメンバーを中心に「Youth Action for Kumamoto」という組織が創られた。

(参考URL:<http://20160414kumamoto.wixsite.com/community>)

FacebookとGoogle mapsを活用して、災害情報の発信共有や炊き出し・ガソリンスタンドの場所をまとめたデジタルマップを作成し、支援を行った。結果、Facebook上のコミュニティには約3400人の参加者が集まり、作成したデジタルマップの総閲覧回数は350万回を超えた。

この組織の行動は各種メディア・白書に特集され、熊本地震発生により被災された約150万人(\* 6強以上益城,西原,熊本市,南阿蘇,菊池,宇土市,大津町,嘉島町,宇城市,合志市が該当)の方々に対し、非常に大きな役割を果たしたと言えよう。

こうした行動を起こすことができたのは、弊団体が掲げた第二の目的が大きく影響したからだと考えられる。

## 7.今後の活動に関して

---

団体としての活動は2018年3月をもって終了とする。

だが、次の災害時にメンバーが再度結集できるよう、『Teen for 3.11』の参加者や関係者が定期的集まることのできる機会の提供を行う。

その第一回として、報告会も兼ねたイベントを3月24日 16:00-(予定)に開催する。

## 8.メディア掲載歴

### ■新聞

- ・朝日新聞 – 朝刊31面等（複数回）
- ・神奈川新聞 – 朝刊社会面（複数回）
- ・東京新聞 – 神奈川県版
- ・京都新聞 – 朝刊21面

### ■雑誌/書籍

- ・リクナビ – 進学ジャーナル
- ・タウンニュース – 藤沢版
- ・子ども白書2013 – 塚田寄稿

### ■テレビ/ラジオ

- ・FMPORT – morning gate
- ・ナイスク学園
- ・テレビ東京 – すなっぷ
- ・NHK – 東北発☆未来塾（2回）

### ■ネットメディア

- ・alterna S –  
アショカ東北ユースベンチャー2013  
エシカルリーダーの未来予想図
- ・Youth for 3.11 –  
4人4色。僕たち、私たちが  
考える東北の未来。

## 9. イベント登壇歴

---

- ・ 高校生環境フォーラム(複数回,各代表)
- ・ ASHOKA Japan関連イベント(塚田)
- ・ 第3回ハイスクールサミットin札幌(塚田)
- ・ カタリバ大学(塚田)
- ・ Next leader project(塚田)
- ・ 語る！わたし御殿！！(塚田)
- ・ SVP東京ネットワークミーティング(塚田)
- ・ 国連防災世界会議 in 仙台(塚田)
- ・ 復興祈念イベント in 中部国際空港 (古川)
- ・ 高校生コネクト(久保)
- ・ こども国連環境会議推進協会(JUNEC)サマーセッション(和田)
- ・ その他、文化祭やイベント出展等多数実施

## 10.御礼

### ■ 5代目代表 丹羽七海

Teen for 3.11 5代目代表の丹羽七海です。

この度Teen for 3.11は、諸々の理由から団体の活動を終了する運びとなりました。

当団体は10代による復興支援のしやすい環境と次の震災に向け素早く行動を起こせる体制を整えることを目標として結成されましたが、東日本大震災から約7年が経過した現在、活動を開始した頃と比較するとニーズが低下し、設立当初に掲げた理念（目的）はある程度達成したと考えております。

また、団体の人員不足により旅行等のイベントを実施しづらくなったこともあり、これ以上活動を継続するのは困難であるという判断に至りました。

これまで当団体に協賛し資金やシステムをご提供くださった団体・企業の皆様、そしてイベントやメールマガジンを通して活動にご参加いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。

## 10.御礼

---

### ■創設者/初代代表 塚田耀太

私が団体を創ろうとした2011年12月から約6年が経ちました。この間、多くの方にお世話になり、そして支えられてきました。本報告書は、この団体に関わって下さった全ての方に「ああ、この団体に関わってよかったな」と思っていたきたい、そのような想いを込めて作成しました。

後輩たちが引き継いでくれたTeen for 3.11は丹羽の言葉にもある通り、今年度をもって活動を終了いたしますが、この活動を通して生まれたつながりや経験が、活動終了後も生かされていくべきだと、強く感じております。

## 10.御礼

### ■創設者/初代代表 塚田耀太

こうした要素は、今後災害が発生したときにこそ、存分に生きてくるものです。実際、2016年に発生した熊本地震の際には、この団体を通じて出会った人々がつながりと経験を生かし、再度一致団結して、未曾有の危機に立ち向かえました。そして今後も立ち向かえると感じております。

最後になりますが、この団体の活動に参加していただいた11,961人の皆様、協賛・ご協力してくださった個人・団体・企業の皆様、そしてなによりも何も知らないただの高校生だった僕たちを受け入れ、共に歩んでくださった東北の皆様にご心より感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

## 11.会計報告書について

---

完成後、別途資料として公開致します。



## 12. その他特記事項

---

### ■ 問い合わせ先

teenfor3.11@gmail.comまで、お願い致します。